

2025年度中間期（第2四半期） 決算説明会

2025年11月4日

広栄化学株式会社

代表取締役社長 佐々木康彰

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1 .会社概要	 2
◆ 2 .2025年度中間期決算概要	 7
◆ 3 .2025年度業績見通し	 14

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



◆ 1.会社概要		2
2.2025年度中間期決算概要		7
3.2025年度業績見通し		14

1. 会社概要

(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 417名※ (2025年9月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

子会社（KGS株式会社）：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

※嘱託含む
(派遣社員は含めない)



千葉事業所

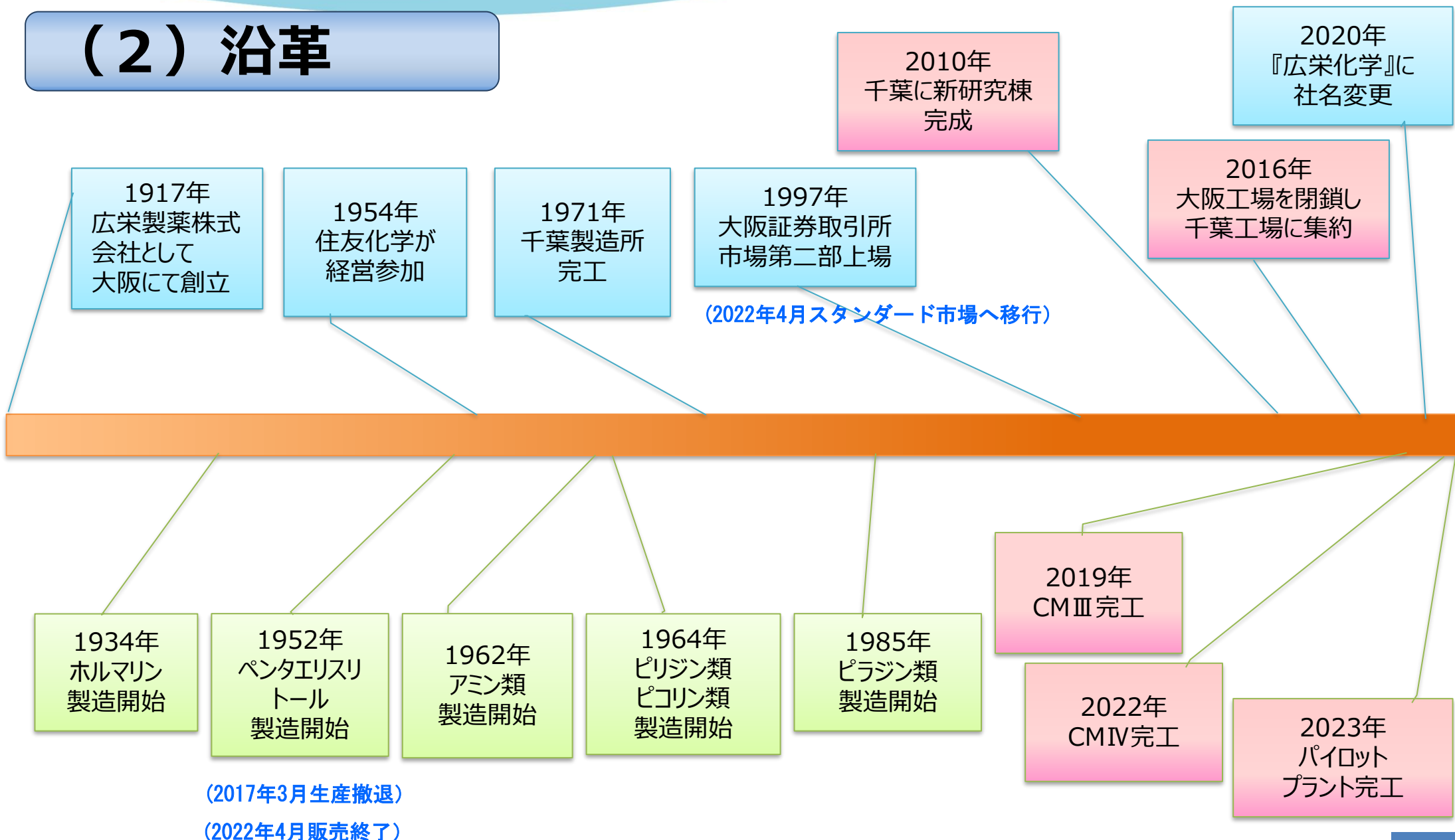


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

100種類以上の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ②カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせる
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMⅠ、CMⅡ、CMⅢ、CMⅣ）で生産

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要		2
◆ 2 .2025年度中間期決算概要		7
3 .2025年度業績見通し		14

2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 決算ハイライト

(単位：百万円)

	2025年度 中間期実績	2024年度 中間期実績	増減 (前年同期比)	2025年度 (5/13中間期予想)
売上高	7,209	9,523	△2,314	7,800
営業利益 又は営業損失	△307	656(※)	△963	△230
経常利益 又は経常損失	△382	499(※)	△881	△290
中間純利益 又は中間純損失	△271	324(※)	△595	△190
1株当たり中間純利益	△55.44円	66.25円	△121.69	△38.85円

※ 当期から四半期繰延処理を廃止したことにより、以下の通り前期値の遡及修正を行っております。

営業利益、経常利益：112百万円増加，中間純利益：76百万円増加

2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 売上高 … 製品グループ別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2025年度 中間期実績	2024年度 中間期実績	増 減	増減の主な内訳
医農薬化学品	2,948	4,988	△2,040	腎疾患薬等 (↓) 農薬関連 (↓) 抗アレルギー薬 (↑)
機能性化学品	2,850	3,268	△417	触媒関連 (↓) 電子材料関連 (↓)
そ の 他	1,410	1,266	144	接着剤原料 (↑)
合 計	7,209	9,523	△2,314	(売価差+20、数量差△2,334)

2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(3) 売上高 … 輸出地域別【前年同期比】

(単位：百万円)

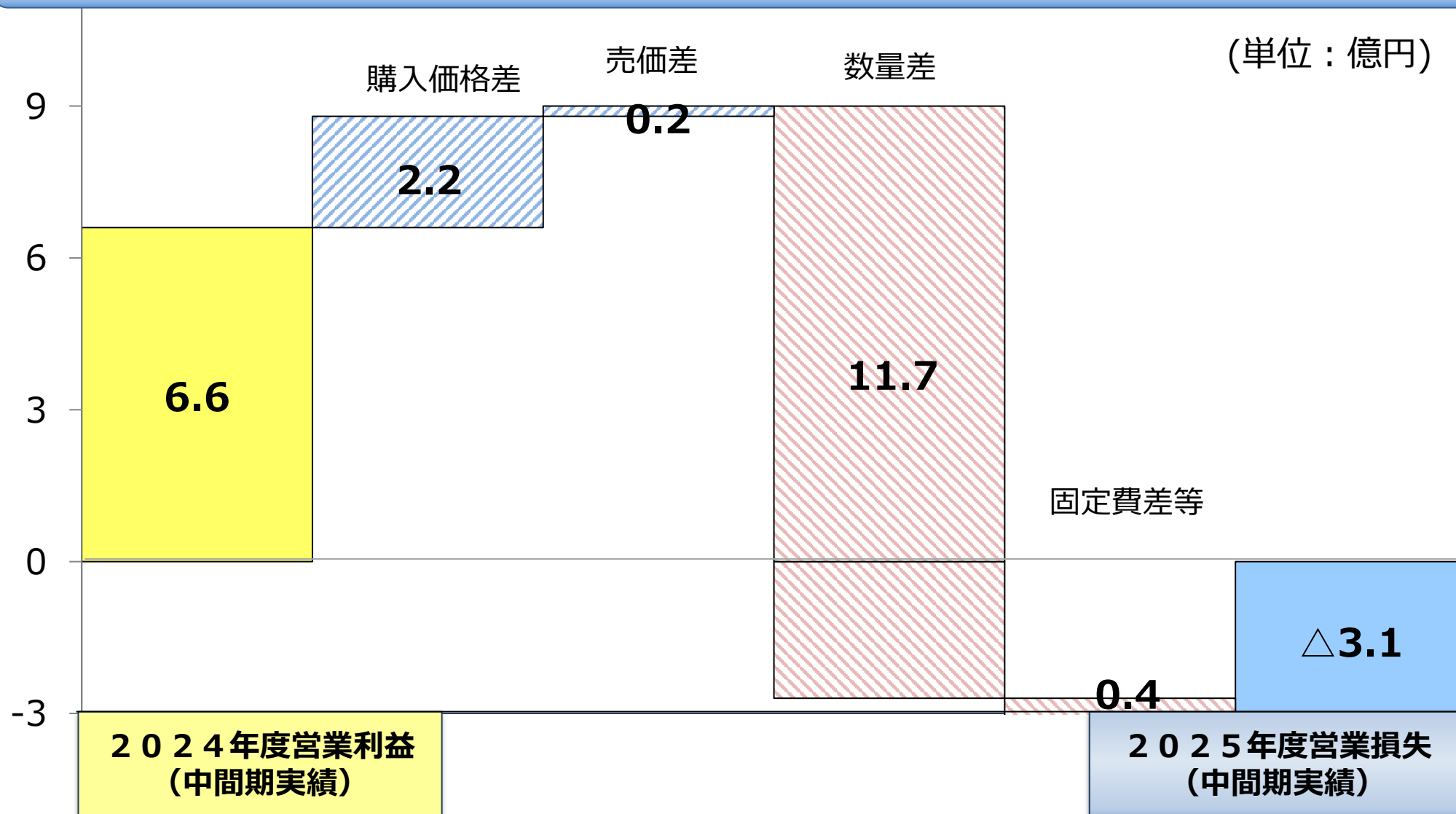
	2025年度 中間期実績	2024年度 中間期実績	増 減	増減の主な内訳
ア ジ ア	3,089	2,182	906	医薬品関連 (↑)
北 米	179	1,584	△1,405	農薬関連 (↓)
欧 州	445	1,908	△1,463	腎疾患薬等 (↓)
そ の 他	0	0	0	
輸 出 合 計	3,714	5,676	△1,962	(円高によるマイナス影響△111)
為替レート (円/米ドル)	(145.90)	(153.58)	(△7.68)	
輸出売上比率	51.5%	59.6%	△8.1%	

2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(4) 営業利益分析【前年同期比】



2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2025年3月末)	(2025年9月末)	増 減	貸方科目	(2025年3月末)	(2025年9月末)	増 減
[資産の部]	3 5 2 . 2	3 5 6 . 9	4 . 7	[負債の部]	1 3 6 . 0	1 4 5 . 9	9 . 9
流動資産	1 3 0 . 4	1 4 2 . 0	1 1 . 6	流動負債	7 2 . 6	8 6 . 9	1 4 . 3
固定資産	2 2 1 . 8	2 1 4 . 9	△ 6 . 9	固定負債	6 3 . 4	5 9 . 0	△ 4 . 4
				[純資産の部]	2 1 6 . 2	2 1 1 . 0	△ 5 . 2
合 計	3 5 2 . 2	3 5 6 . 9	4 . 7	合 計	3 5 2 . 2	3 5 6 . 9	4 . 7
				自己資本比率	61.4%	59.1%	△2.3%

● 主な増減要因（資産）

売掛金	△ 1 4 . 8 億円
棚卸資産	+ 2 1 . 8 億円
有形固定資産	△ 8 . 1 億円

● 主な増減要因（負債）

買掛金	+ 1 4 . 1 億円
未払金	△ 5 . 2 億円
借入金	+ 1 . 7 億円

2. 2025年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(6) キャッシュ・フロー【前年同期比】

(単位：億円)

	2025年度 中間期実績	2024年度 中間期実績	増減	増減の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	10.8	33.8	△23.0	棚卸資産増加
投資キャッシュ・フロー	△8.7	△7.2	△1.5	
フリー・キャッシュ・フロー	2.1	26.6	△24.5	
財務キャッシュ・フロー	△0.9	△22.4	21.5	借入返済額減少
現金等同等物増減	1.2	4.0	△2.8	
中間期末現預金残高	4.5	9.6	△5.1	
中間期末借入金残高	66.5	73.2	△6.7	

目 次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	 2
2 .2025年度中間期決算概要	 7
◆ 3 .2025年度業績見通し	 14

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 2025年度中間期業績進捗状況

(単位：百万円)

	売上高	営業利益 又は営業損失	経常利益 又は経常損失	当期利益 又は当期損失
中間期公表 (5/13)	7,800	△230	△290	△190
中間期実績	7,209	△307	△382	△271
差異 (対中間期公表値)	△591	△77	△92	△81

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 事業環境および損益見通し

● 各製品グループの事業環境

			当中間期 → 下期以降	
医農薬化学品	医薬関連	前期から減少	(↘)	(↘)
	農薬原料	前期から減少	(↘)	(→)
機能性化学品	電材関連	底入れ	(↘)	(↗)
	触媒関連	需要減少継続	(↘)	(↘)
	光学材料関連	4Q販売	(-)	(→)
その他	カーボンニュートラル関連	堅調	(→)	(↗)
	樹脂関係	堅調	(→)	(↗)

● 前提条件および損益見通し

		下期以降
売 価 差	為替:(5/13)通期140円/\$→(10/29)下期145円/\$ (5/13)通期160円/€→(10/29)下期170円/€	(↗)
購入価格差	ナリ価格: (5/13) 通期70,000円/KL → (10/29) 下期63,500円/KL	(↗)
数 量 差	販売状況: 上記のとおり販売数量減	(↘↘↘)

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(3) 2025年度業績予想【概要】

<2025年10月29日変更>

(単位：百万円)

	2025年度 今回予想	2025年度 前回予想	増 減 (前期比)	2024年度 実 績
売 上 高	18,000	19,500	△1,500	20,018
営 業 利 益	200	450	△250	566
経 常 利 益	100	350	△250	356
当期純利益	30	280	△250	288
1株当たり配当金	80円	100円	△20円	100円

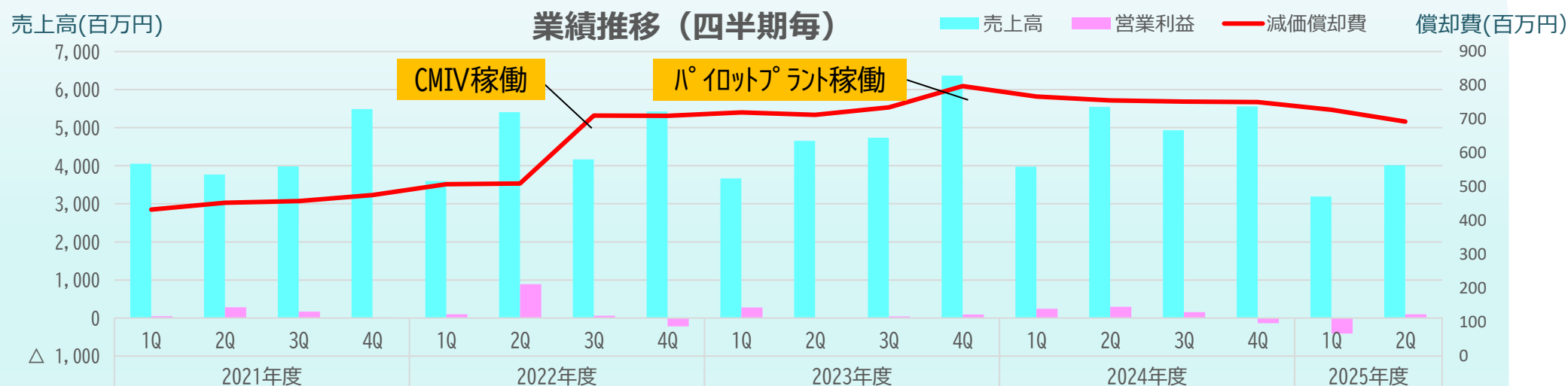
3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ

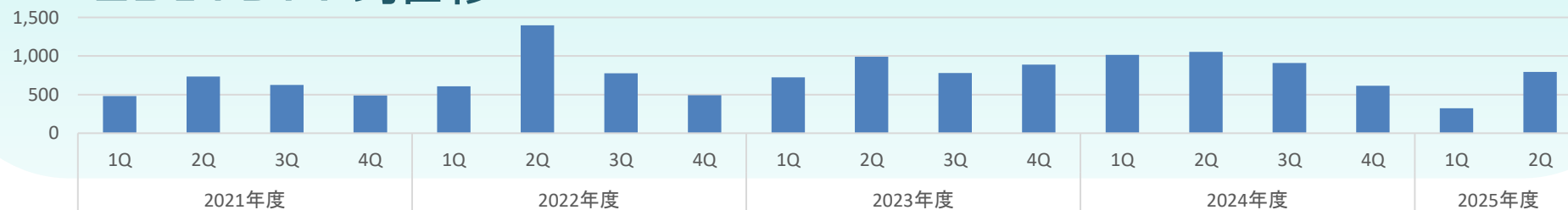


(4) 営業利益低迷の要因について①

● 営業利益および減価償却費の推移



● EBITDAの推移



中期経営計画（2019年度～2021年度）において意思決定した大規模設備投資（総額164億円）により、複数の新プラントが稼働を開始している。

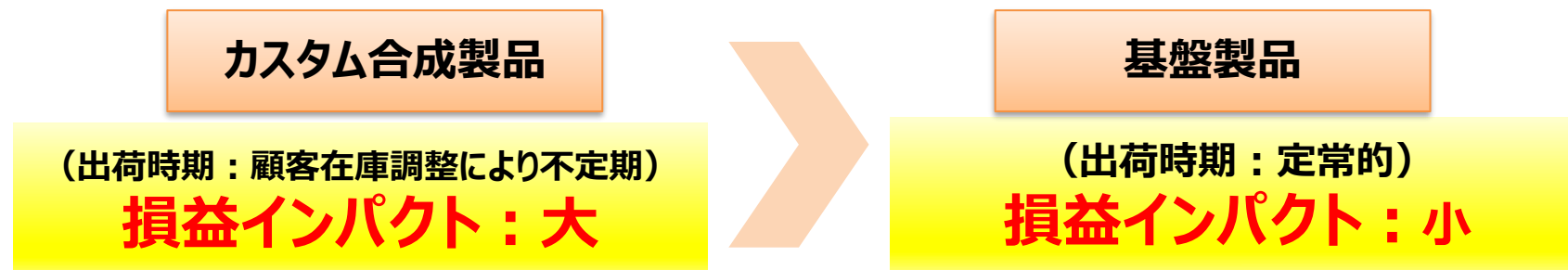
これにより、2022年度以降は償却費負担が急激に増加し、利益水準を押し下げている状況。

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(4) 営業利益低迷の要因について②



● 主なカスタム合成製品の状況

医薬関連	・一部の大型製品の出荷時期は、顧客の在庫調整のタイミングに左右される。 2025年度については出荷予定がない製品もあるが、来年度以降出荷予定。
触媒関連	・2007年以来、複数の新製品販売を通して売上高を伸ばしてきたが、 2023年度以降は中国の生産能力増強の影響から石油化学製品が供給過多になる等、需給バランスが崩れている影響を受け、需要回復が遅れている。

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(5) 目標利益確保に向けた取り組み

● 取り組み内容

取り組み項目	進捗内容
新製品開発 (受注タイミングの関係で余力があるプラントについて、新製品の受注獲得による稼働率の向上を目指す)	・新規機能性製品受注 ・輸入原料の自製化 ・顧客川下工程を当社で取込み一気通貫生産 ・過去受託品を洗い出し再受託に成功
売価是正 (原料価格や為替動向等、市況の変化を注意深く確認し、製品価格に適切に反映する)	・既存製品（アミン・気相）等の採算是正
各種合理化・厳選投資 (生産予定品目の処方見直しによる生産性向上、投資の厳選および補修費の実施内容見直し等のコスト合理化)	・一部気相製品の販売好調に伴い、生産性向上に向け設備投資実施 ・原単位等コスト合理化、原料低廉購買、各種費用削減の徹底

収益性改善に向け全社総力戦で取り組み推進中

3. 2025年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ

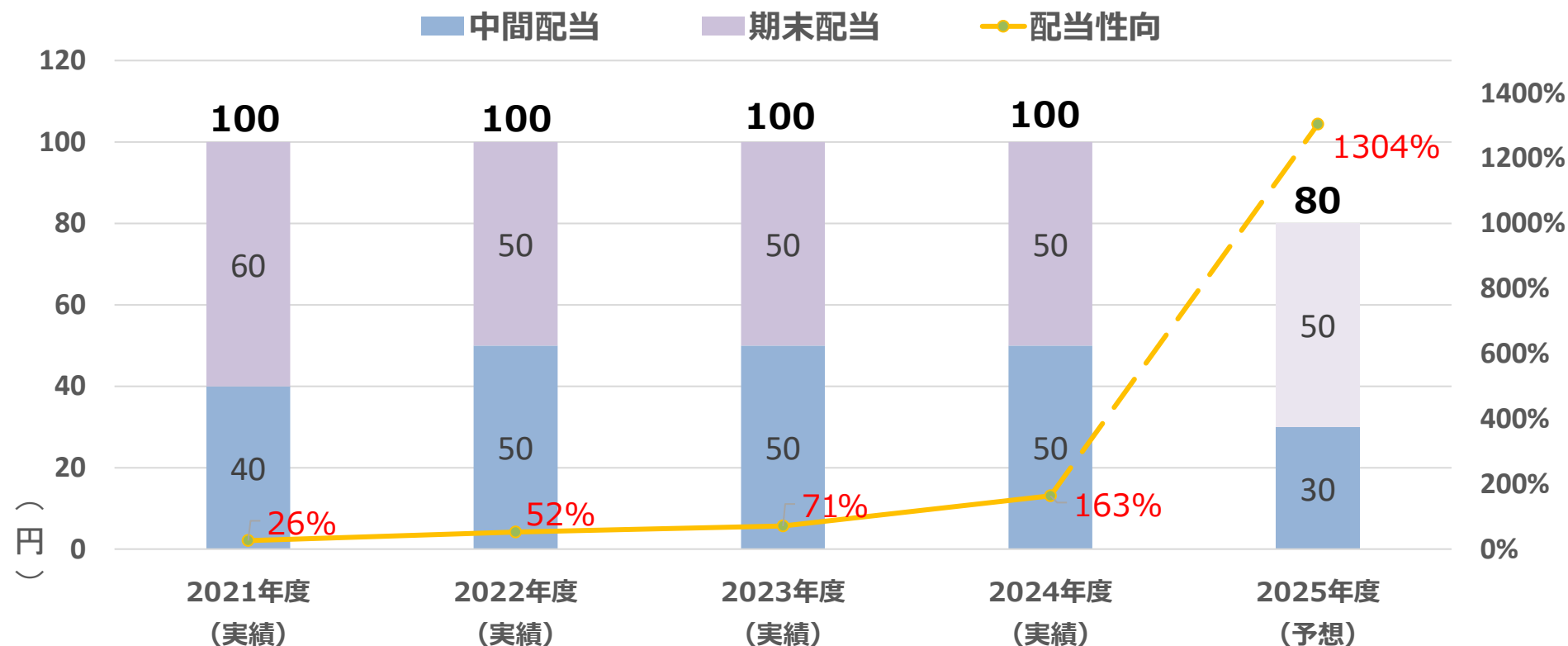


(6) 配当予想

配当政策

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。

配当性向については、原則 50%を目途に株主還元を実施する方針とする。



ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。